



1日歯医者さん(歯科クリニック)の様子

先端研究推進センターの設立について



看護福祉学部 教授 小林 正伸

2020年4月1日に先端研究推進センターが立ち上がります。北海道医療大学では、開学以来、各学部において各々の専門分野での研究が続けられてきました。これらの研究活動をサポートするために、健康科学研究所が先端機器共同研究施設としての役割を担ってきました。しかしながら先端機器を集積するだけでは、日々変わりゆく最新研究の進歩に追いつくことさえ難しくなっています。さらに、難しくなる一方の国家試験に向けた学部教育の占める割合が徐々に増加し、最先端研究を学部ごとに進めることが難しくなっています。先端研究推進センターは、研究機器ばかりでなく研究者も1箇所に集積することで、専門分野を越えた共同研究によって最先端研究に追いつき、北海道医療大学のオリジナルな研究を確立することを目的としています。

先端研究推進センターの自然科学研究分野では、各学部の若手研究者を中心に兼任研究員として集まってもらい、各々の得意分野を活かした共同研究を行い、北海道医療大学独自のオリジナリティーの高い研究の確立をめざしています。その代表的プロジェクトの一つが、「歯周病の全身疾患の発症への関与の探索」です。がんや自己免疫疾患など多くの疾患の原因は未だ不明のままですが、日本人の多くが罹患しているとされる歯

周病が、多くの疾患の原因の一つとなっている可能性を明らかにしていく、独自の仮説に基づいた研究となっています。胃がんの原因がピロリ菌であることが証明されたこと、腸内細菌が炎症性腸疾患の原因となる可能性が提唱されたことなど、体内のマイクロバイオームの新しい側面が注目されつつあります。私たちの研究が、口腔内マイクロバイオームに新たな光を当てる研究になるものと期待しています。他にも「口腔機能と認知症」、「当別の植物の健康への有用性の探索」というプロジェクトも進めていきます。

社会科学分野においては、世界で最初に浦河町のべてるの家で始められた「当事者研究」を、世界中で紹介して広めてこられた向谷地教授がプロジェクトリーダーとして、「当事者研究」プロジェクトを立ち上げます。「当事者研究」は、これまで向谷地教授と東京大学との共同研究として続けてこられ、世界中の研究者たちや報道機関が注目している研究です。もう一つの大きなプロジェクトは、社会福祉法人ゆうゆう等との共同研究として、「当別町の医療・福祉の向上」プロジェクトを進めていきます。また、AIを活用した教育教材・方法の開発も進めていきます。2年後をめどに実績が出るよう努力してまいりますので、ご協力・ご支援よろしくお願ひ申し上げます。

CONTENTS

先端研究推進センターの設立について	1
新任教員・昇任教員紹介 定年退職される先生からのメッセージ	2
OPEN CAMPUS 2019 開催報告	4
特別賞受賞者の紹介 就職支援イベント 災害時の歯科医療救護活動に関する協定	5
同窓会活動状況	6
OG訪問【作業療法学科】	8
あのととき、これから。医療大。	9
Society 5.0/AI時代に向けた 教育支援をめざして	10
アダプテッドスポーツの 普及について	11
インターネットによる ご寄附が可能となりました EDITOR'S NOTE	12